

令和元年度
藤岡市
人・農地プラン
上大塚地域

市町村名	藤岡市	集落／地域名	上大塚地区
当初作成年月日	平成24年10月	分割作成年月日	平成29年 2月
更新年月日（1回目）	平成30年 3月	更新年月日（2回目）	平成31年 3月
更新年月日（3回目）	令和 2年 3月	更新年月日（4回目）	令和 年 月
更新年月日（5回目）	令和 年 月	更新年月日（6回目）	令和 年 月
更新年月日（7回目）	令和 年 月	更新年月日（8回目）	令和 年 月

1. 今後の地域の中心となる経営体（担い手）

No.	個人コード	属性	経営体 (氏名)	経営者等の年齢	構成員数	後継者の有無	現状 [令和元年度]		計画 [令和6年度]		農地中間管理事業利用希望の有無	今後の取組内容	取組年度	今後活用が見込まれる施策等					備考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世代人材投資事業	金利軽減措置	経営体育成支援事業	その他国庫事業	その他県単補助事業	
1	2	4 認農・法人	B 合資会社	44 歳	13 (20) 名	○	麦作	13.87 ha	麦作	114.00 ha	×	5 低コスト化	既	×	○	△	△	△	
2	6	5 認農・農事	F 農事組合法人	54 歳	13 名	○	米麦	9.42 ha	米麦	15.00 ha	×	5 低コスト化	既	×	○	○	△	○	
3	66	1 認農・個人	B K	77 歳	2 名	×	施設野菜	0.89 ha	施設野菜	0.80 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	△	
4	67	1 認農・個人	B L	66 歳	2 名	×	露地野菜 米麦	3.30 ha	露地野菜 米麦	4.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
5	71	1 認農・個人	B P-1	75 歳	2 名	×	施設野菜	1.61 ha	施設野菜	1.70 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
6	72	2 認農・共同	B P-2	70 歳	— 名	×	施設野菜	— ha	施設野菜	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
7	88	5 認農・農事	C E 農事組合法人	63 歳	34 名	○	麦作	2.30 ha	米麦	10.00 ha	○	4 複合化	34	×	○	○	△	○	
8	132	1 認農・個人	D O-1	72 歳	2 名	○	米麦 露地野菜	12.44 ha	米麦 露地野菜	10.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
9	133	2 認農・共同	D O-2	70 歳	— 名	○	米麦 露地野菜	— ha	米麦 露地野菜	— ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
10	136	4 認農・法人	D Q 有限会社	69 歳	3 (4) 名	○	米麦雑穀 (有機)	30.00 ha	米麦雑穀 (有機)	30.00 ha	○	3 高付加価値化	既	×	○	○	○	○	
11	138	1 認農・個人	D S	40 歳	2 名	×	施設野菜 米麦	1.09 ha	施設野菜 米麦	1.20 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	△	△	○	
12	139	1 認農・個人	D T	50 歳	2 名	×	施設野菜 米麦	4.22 ha	施設野菜 米麦	5.00 ha	×	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	
13	154	1 認農・個人	E G	66 歳	2 名	×	酪農	110.00 頭	酪農	140.00 頭	×	3 高付加価値化	既	×	○	○	△	○	

No.	個人 コード	属性	経営体 (氏名)	経営者等 の年 齢	構 成 員 数	後 継 者 の 有 無	現状 〔令和元年度〕		計画 〔令和6年度〕		農地中間管理事業利用希望の有無	今後の 取組内容	取 組 年 度	今後活用が見込まれる施策等					備 考
							経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)	経営内容 (作目等)	経営規模 (ha・頭羽数)				農業次世 代人材投 資事業	金利軽減 措置	経営体育 成支援事 業	その他国 庫事業	その他県 庫補助事 業	
14	185	12 事業担い手	F K	76 歳	1 名	×	米麦	0.45 ha	米麦	0.55 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	
15	186	12 事業担い手	F L	69 歳	1 名	×	米、野菜、ナス	0.27 ha	米、野菜、ナス	0.36 ha	○	3 高付加価値化	既	×	×	×	×	×	

【記載上の注意】

※ 「今後の地域の中心となる経営体」には、規模拡大による経営の効率化、6次産業化による農畜産物の高付加価値化、経営の多角化・複合化、後継者の育成など、地域農業の発展を牽引する経営体や、将来こうした役割を担うであろう新規就農者等を経営体の意向も踏まえた上で記載する。

※ 「属性」には、認定農業者は「認農」と記載し、個人・法人の別、共同経営者・後継者の別等を記載。また、農事組合法人は「農事」、集落営農組織は「集営」、認定新規就農者は「認就」、就農後に認定農業者を目指してもらう者を「育成対象」と記載。年齢等により認定農業者の更新を行わなかったが、今後技術の承継を行うであろう者を「目標達成」と記載。

※ 「計画」欄は、おおむね5年後の経営内容・経営規模を記載（以下「計画」欄についても同じ）。

※ 「今後の取組内容」欄は、経営の維持・発展のために今後取組もうとする内容を記載。

※ 「取組年度」欄は、取組開始年度を記載するが、以前より既に取り組んでいる内容については「既」と記載する。

2. 1 から見た地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている / 担い手はいるが十分ではない / 担い手がない

3. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	目標としては、土地改良を実施し、中心経営体に集めていく地区としたい。 めばしい後継者候補がほとんどいない状況で、農家子弟も農業に関心を持っていないのが現状。農業自体に魅力がないことが課題である。 高齢となっている農家も多く、管理ができなくなっている人も年々増加している。担い手を含め、地区で現役で農業を行っている人の多くが高齢化しており、5年後くらいには遊休農地が急に増えるのではないかと懸念される。
担い手に集積・集約化する	○	
担い手の分散錯圃を解消する	○	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	○	
耕作放棄地を解消する	○	
その他[右欄に記載]	○	

4. 3 についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	借り手がないのが現状ではあるが、農地中間管理事業も活用していきたい。 土地所有者向けの説明会を公民館等を利用して開催してもらい、制度の詳しい説明を行ったらどうか。樹木などが生えてしまっている農地も貸せるのかなど詳しい説明が知りたいという声がある。 不在地主も多く、土地改良事業等も行っていないので、借り手がいるのかが不安材料である。
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
その他[右欄に記載]	○	

5. 地域の標準賃料について

美土里地区に関しては基盤整備されていない農地が多く、水不足が発生していることもあり標準賃料に関しては田で5,000円/10a、畑で3,000円/10aくらいが妥当であるとの意見があった。土地改良を含む基盤整備を行い、耕作条件を良くしない限り現在の標準賃料は割に合わないという意見があった。

6. 近い将来、農地の出し手となる者と農地

No.	個人 コード	農地の出し手となる 農業者	地区別	現状 [令和元年度]			貸借対象 農地面積	今後 [令和6年度]	農地中間管理機構への貸付等の有無			備考
				所有農地面積	経営農地面積	貸付済農地面積		経営農地面積		農地面積	貸付 時期	
1	1	A	美土里	0.32 ha	0.21 ha	0.11 ha	0.08 ha	0.13 ha	○	0.0832 ha	随時	
2	17	Q	美土里	0.14 ha	0.14 ha	0.00 ha	0.14 ha	0.00 ha	○	0.1394 ha	随時	
3	19	S	美土里	0.25 ha	0.25 ha	0.00 ha	0.25 ha	0.00 ha	○	0.2497 ha	随時	
4	57	B E	美土里	0.31 ha	0.31 ha	0.00 ha	0.24 ha	0.07 ha	○	0.2388 ha	随時	
5	113	D I	美土里	0.64 ha	0.64 ha	0.00 ha	0.64 ha	0.00 ha	×	0.6396 ha	すぐに買したい	
6	114	D J	美土里	0.70 ha	0.70 ha	0.00 ha	0.70 ha	0.00 ha	×	0.7027 ha	すぐに買したい	
7	115	D K	美土里	0.83 ha	0.59 ha	0.24 ha	0.59 ha	0.00 ha	×	0.5926 ha	すぐに買したい	
8	116	D L	美土里	0.62 ha	0.62 ha	0.00 ha	0.62 ha	0.00 ha	○	0.6178 ha	すぐに買したい	
9	117	D M	美土里	0.51 ha	0.51 ha	0.00 ha	0.51 ha	0.00 ha	×	0.5083 ha	すぐに買したい	
10	118	D N	美土里	0.44 ha	0.44 ha	0.00 ha	0.44 ha	0.00 ha	×	0.4413 ha	すぐに買したい	
11	119	D O	美土里	0.53 ha	0.53 ha	0.00 ha	0.53 ha	0.00 ha	×	0.5263 ha	すぐに買したい	
12	121	D Q	美土里	0.41 ha	0.41 ha	0.00 ha	0.41 ha	0.00 ha	×	0.4146 ha	すぐに買したい	
13	122	D R	美土里	0.03 ha	0.03 ha	0.00 ha	0.03 ha	0.00 ha	×	0.0319 ha	すぐに買したい	
14	216	H J	美土里	0.13 ha	0.13 ha	0.00 ha	0.13 ha	0.00 ha	○	0.1283 ha	随時	

7. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方（地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者も含めて）		
取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化	○	当該地区の農家の多くが65歳以上となっている。土地改良事業も行われておらず、不整形な使い勝手が悪い農地を少人数の担い手をお願いして無理に借りてもらっている状況。 農道が狭く、機械が入っていかない場所もあり、水路の掘さらいなどでも人手が足りずに支線の管理ができていないなど、土地改良事業に取り組みたいが、地区は住宅等も混在し始めており、事業実施できない環境にある。また、砂利を採取してしまっている土地が多く、土地改良をしても換地の際にもめるのでは無いかとの懸念がある。 農業団地として農地を全て企業に貸し出し、ハウス等の施設野菜団地として利用してもらうのはどうか？
複合化		
6次産業化		
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[]		

8. 今後の地域維持のあり方

当該地区は、美土里地域の中でも特に耕作放棄地が多い地域である。土地改良事業などでもそうなのだが、地域のリーダーとなる人がおらず、物事が進んでいない傾向にある。 砂利採取の影響で、栽培できる作目にかなりの制限がある。基盤整備も含めた土地改良事業は必須と思われるが、地域で話がまとまる気配は無い。 不在地主や土地持ち非農家の割合も多く、農地の1～2割は草刈りだけを行っている状況になっている。このままでは将来、大部分が荒廃農地化することは避けられない状況である。 地域の土地の状況を一度整理し、農地の流動化を促していかないと、活用できない土地ばかりになってしまいかねない懸念を感じている。 地域の問題として、区長や所有者を交えた座談会を行う必要がある。

※ 今後、農地を含め地域の維持をおこなうため、地域の話し合いにより判明した問題点・地域維持のあり方をまとめる。